

- 次期計画の構成については、現行計画の構成を生かして組み立てていきたい。（下表は現行版の構成）
- 今回の懇談会では、計画の構成の中で核となる「基本目標と施策の方向性」の検討に向けて、次期計画終期である、5年後の「目指す姿」(案)についてご意見をいただきたい。

現行版「長野県文化芸術振興計画」(2018.4～2023.3)の構成

第1 策定の考え方

- 1 策定の目的
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間
- 4 対象とする文化芸術の範囲

第2 現状と課題

- 1 文化芸術を取り巻く環境の変化
- 2 長野県の文化芸術の現状と課題

第3 長野県の文化の特性

第4 文化芸術の力・価値

第5 基本目標と施策の方向性

- 1 基本目標
- 2 めざす姿
- 3 長野県の役割と推進体制

第6 施策の展開

- 重点的施策
重点的に取り組む推進拠点・推進体制の強化
信州クリエイティブ・プロジェクト
- 1 文化芸術を楽しみ、創るひとづくり
 - 2 文化芸術に広く親しむ社会づくり
 - 3 文化芸術の力を活かした地域づくり

第7 文化芸術行政の推進拠点・推進体制

第8 計画の進捗状況の評価・検証

文化芸術の課題等

第1回有識者懇談会での意見交換をはじめ、文化芸術に係る現状の課題やめざす姿等について様々な意見を頂戴したが、大きく以下の項目が上げられる。

- 文化芸術はもっと身近に触れられるものにするべき
- 文化施設が公共的な空間や学びの場として活用されるべき
- アーティストが地域や社会と関わりを深める場が必要
- 文化芸術に関わる専門人材の育成が必要
- 文化芸術を社会課題や環境問題に生かすべき
- 伝統文化を保護し、調査研究を通じて価値を継承していくべき

めざす姿(案)

上記の課題や資料1の「今後の方向性」等を踏まえ、5年後の「めざす姿」を以下の3つとしてはいかがか。

①誰もが文化芸術に触れることができる環境

県内に文化芸術に触れられる場所が数多く存在し、文化芸術の表現者が生き生きと活動していることで、全ての県民が身近に文化芸術に触れることができる。

②あらゆる分野で文化芸術が根つき生かされる社会

教育分野への活用をはじめ、障がい者アートなどの福祉分野、観光振興などの地域活性化、さらには環境問題などの社会課題に対して文化芸術の力が生かされている。

③文化芸術活動を支え、その価値を守り続けられる地域

文化芸術を支える人材が育成され、支援機関や文化施設が連携していることで、文化芸術活動や伝統芸能を地域で支える取組が行われている。